

## 留学に関する Q&A 古俣 大地

### Q1 自己紹介、留学時期、留学先、勉強内容

福井県立大学 海洋生物資源学部 3 年 古俣大地

留学時期は二年次の 2019 年 8 月から 2020 年 3 月までの約 8 ヶ月間です。

オハイオ州フィンドレー 大学に留学していました。

留学先での学習として英語の基本的能力の向上、デジタルポトグラフィ、日本文化、アメリカン手話など幅広い分野について勉強していました。

### Q2 履修科目、科目数

|    |                                                  |    |   |   |
|----|--------------------------------------------------|----|---|---|
| 1  | Intermediate Listening for Non-Native Speakers   | 60 | 3 | 3 |
| 2  | Intermediate Listening for Non-Native Speakers   | 60 | 3 | 3 |
| 3  | Intermediate Reading for Non-Native Speakers     | 60 | 3 | 3 |
| 4  | Intermediate Comm Skills for Non-Native Speakers | 60 | 3 | 3 |
| 5  | Intermediate Composition for Non Native Speakers | 60 | 4 | 4 |
| 6  | Experiences in Japanese                          | 60 | 1 | 1 |
| 7  | Concert-Chorale (Choir)                          | 80 | 1 | 1 |
| 8  | Digital Photography                              | 60 | 3 | 3 |
| 9  | American Sign Language (ASL)                     | 60 | 3 | 3 |
| 10 | College and Professional Reading                 | 60 | 3 | 1 |
| 11 | English for Specific Purposes                    | 60 | 3 | 2 |
| 12 | Writing Review for Non-Native Speakers I         | 60 | 3 | 3 |
| 13 | Writing Review for Non-Native Speakers I/Lab     | 80 | 1 | 1 |
| 14 | Concert-Chorale (Choir)                          |    |   |   |

### Q3 留学の志望動機

英語が上手になりたい、海外生活を経験したいといった一般的な理由ももちろんありました。しかし、最も大事にしていた事は自分の能力を試す事、自分自身について学ぶ事です。（当時の動機がどこかへ飛んでしまうほど刺激のある留学生活を送ってきました！）

### Q4 留学を準備し始めた時期

一年次の後期ごろから

### Q5 留学準備で大切なこと/県大内で準備すべきこと

ビザ申請やパスポート、海外保険など大学に用意するものや渡米前に必要になる書類は沢山あります。国際・留学支援課の担当職員の方と頻繁に打ち合わせし、不安や不足を少しずつ無くすことです。また、フィンドレー 市について下調べしておくのと近くのスーパーへ買い物に行く時はとても便利です。

## Q6 留学費用はいくらかったか。出発までの準備費用と留学中の費用、受け取った補助金や奨学金

生活費や大学に払う諸経費と寮費、渡航費など約 180 万円から 200 万円ですが、フィンドレー市から移動する事に費用は変化します。例えば春休み中にカリフォルニア州へ旅行したいとなれば、その都度費用は増えていきます。（航空券は国内であっても高額です。）補助金は大学から 30 万円、奨学金は福井県グローバル人材基金から 50 万円受け取りました。

## Q7 準備する上で障害だったこと、どうやって乗り越えたか

ビザ申請には余裕を持って準備していたものの、航空券を取れたのは出国の 2 ヶ月程前でした。ストレスが溜まりやすいので、担当の国際課の職員さんと何度も打ち合わせをして一つずつ処理していきました。今振り返ってみると、そこまで緊張する必要はないと思います。フィンドレー大学の留学生担当の方も同じ「人間」ですし、少しの不備や間違いは後から修正することも可能です。ある程度のストレスは書類上のミスを減らす上ではうまくいきますが、留学すること自体に憂鬱にならぬよう気楽に構えて留学中どんな楽しい事をしたいかを想像しながら進めていく事をお勧めします。

## Q8 留学が始まってから大変だったこと

友人を作ることやイベントに参加する事にはかなり悩まされました。英語能力ではなくコミュニケーション能力を試されるからです。自分の持っている特技や趣味などを武器に自信を持って自己表現をしていました。（ルービックキューブやライフセーバーの経験、日本での専攻している学問、覚えたてのアメリカンジョーク、落語などの日本文化）それと同時に相手の話に耳を傾けて、自分が相手の表現や意思を受け止める柔軟性も必要でした。

## Q9 日本の大学との違い、どんな刺激を受けたか

大きく違う点で、授業スタイルが最初に挙げられます。日本の大学とは異なり、授業は少人数（約 10 数人）程度で、自分の意見を話す事や質問をする機会が圧倒的に多かったです。会話型と言うのか、先生が学生に講義する時間と、学生が授業中に発言する時間は同じくらいで、常に学生が話す機会が与えられ、自由に自分の主張をしていました。初めのうちは少し緊張しましたが、慣れてくると誰かが自分の話を聞いてくれている事を嬉しく思い、そしていかに相手にわかりやすく自分の主張を伝えるかを考えるようになりました。例えば話をしたり、手や上半身を動かしたボディランゲージを用いて、自分の拙い英語を補うように何とか自分の気持ちを表現したりしていました。すると英語よりも大事な事は何なのか気づき、言語よりもコミュニケーション能力に着目するようになりました。

## Q10 交友関係はどうだったか

ハウスメイトはもちろん、同じクラスメイトと友達になりました。休日に映画に誘ってくれたり、アメリカの大統領選挙について教えてもらったり、本物のライフルで射撃練習をした事もありました。最初は話す話題がなく友達を1人作るだけでかなり時間がかかりましたが、人数ではなく、その友人とどんな友情を深めることができるかが重要であることに気づきました。今でもたまにテレビ電話をしたり、手紙を送りあったりしていて、その関係は今も続いています。

## Q11 もう一度留学をやり直せるならどのようにしたい

もっと沢山のひとと会話をしたかったです。彼らの話は刺激的で、私のものの考え方や人間関係を変化させ、新しい人間に育ててくれました。学校の関係者だけでなく、地元のレストランで働く日本人、旅行先で出会ったユーチューバー、軍役を終えホームレスになった40歳の男性など、自分を刺激してくれるのはいつでも「人」でした。人は人の中で生きてると予備校時代の生物の先生がおっしゃっていた事が思い出されます。その意味がようやくわかった気がして、家の中に1人いる自分を外に引っ張り出してやりたいです。

その他には日本では味わえないフルーツや野菜、そしてカロリーたっぷりのシカゴピザを食べておきたかったです。初代フィンドレー 大学に留学していた先輩が勧めてくれていたのですが、シカゴに行く機会がなく、とても残念です。

## Q12 就職活動で留学経験をどう活かしたいか/活かしたか

留学は自分の能力、特徴、そして可能性を明確化させてくれるものでした。就活でいう自己分析に近いと思います。留学中はとにかく何事にも夢中になり、満足いくまで何事も取り組みました。結果が出た事も、そうでない事も全てが自分を知る上で重要なデータです。それをもとに私は以下のようなプロセスで就職活動に活かしていきます。まず初めに、どの様な最後（死ぬ時）を迎えるかを想像していきます。（いきなりこんな事を書いて驚かれるかもしれませんが最後まで読んでください。）就活において収入や休日の制度ももちろん重要ですが、私が就活をする上でまず初めにする事として自分はどのような人生の最後、つまり死を迎えるかという事です。（自分なりの哲学です。優しい目で読んでください。）自分の最後はどのような家族、仕事仲間、友人に見送ってもらえるだろうかと想像します。それに向かうために、どのような人間関係を持ち、何の仕事について、どんなボランティア活動して、どんな趣味を持ちたいかを考えていきます。すると私が達成しなければならないことは、自分が好きな仕事に就く事だけではない事に気づきます。仕事と生活のバランスが取れ、かつ最高の人生の終わり方を迎えられようような仕事を探していきます。そしてやっと自分の能力と、仕事に求めるもの、達成したい事をそれぞれグラフにしていきます。後の方法は一般的な就活応援サイトに載っている職業選択と同じで、細かい自己分析とそれに適合する職業を調べ上げていきます。

まとめると、留学経験は何事にも挑戦し続けた時間の中で自分なりの哲学を与えてくれました。そしてそれは就職活動だけでなく、自分の人生そのものを大事にするための大きな手掛かりになりました。

私も就職活動真っ只中で、ストレスがたまる日々を送っています。それは決して就職活動が面倒だからという理由ではなく、自分自身と向き合うのがこんなにも大変だとは思わなかったからです。これは就職活動が終わった後も死ぬまで続いていくものだろうと思うと少しため息が出そうですが、これこそが私の幸せな事であり、自分の好きな人生を好きな様に最後まで突き詰めていける事を心から嬉しく思います。そのような自分に育ててくれた家族、友人、先生方、職員の方々、留学経験の全てに感謝しています。

### Q13 留学したい学生達にメッセージ

主に上記の内容の通りなのですが、改めて振り返ると、留学は英語を学ぶためにあるのではなかったのだとしみじみ感じています。今、留学を考えている人達の背中を押すために、一言だけ言わせてください。

留学は真っ白い壁紙です。筆を持っているのはあなたです。無限に広がった壁紙を好きな色で好きな様に彩ってください。（最後にビシッと決めたいと思い、『留学』から自由、自立、無制限、可能性という言葉が連想してこの結果になりました。自分なりに熟考し、思い浮かんだことです。）